

平成24年横浜港の港勢

入港船舶

		単位	24 年	前年比	構成比	23 年	前年比	構成比
総 数	隻 数	隻	37,047	99.5	100.0	37,249	99.7	100.0
	総トン数	総トン	273,870,015	99.1	100.0	276,361,377	98.7	100.0
外 航 船	隻 数	隻	10,313	96.3	27.8	10,709	99.4	28.7
	総トン数	総トン	231,686,787	97.6	84.6	237,431,276	98.7	85.9
うち フルコンテナ船	隻 数	隻	5,097	94.6	49.4	5,390	99.7	50.3
	総トン数	総トン	122,284,586	92.2	52.8	132,663,994	95.6	55.9
内 航 船	隻 数	隻	26,734	100.7	72.2	26,540	99.8	71.3
	総トン数	総トン	42,183,228	108.4	15.4	38,930,101	99.2	14.1

海上出入貨物

		単位	24 年	前年比	構成比	23 年	前年比	構成比
総 数	貨 物 量	トン	121,387,750	100.1	100.0	121,326,484	93.5	100.0
	うちコンテナ貨物量	トン	44,403,399	95.2	36.6	46,658,916	89.5	38.5
	コンテナ個数	TEU	3,052,775	99.0	100.0	3,083,474	94.0	100.0
外 貿	計	トン	77,902,749	96.5	64.2	80,754,701	92.6	66.6
	輸 出	トン	33,126,805	93.1	27.3	35,600,751	84.9	29.3
	輸 入	トン	44,775,944	99.2	36.9	45,153,950	99.7	37.2
うち コンテナ貨物	計	トン	41,820,370	94.5	53.7	44,251,797	89.8	54.8
	輸 出	トン	19,136,220	90.6	57.8	21,120,806	82.7	59.3
	輸 入	トン	22,684,150	98.1	50.7	23,130,991	97.4	51.2
コンテナ個数	計	TEU	2,731,231	97.4	89.5	2,802,916	93.8	90.9
	輸 出	TEU	1,465,718	97.9	48.0	1,497,657	93.4	48.6
	輸 入	TEU	1,265,514	97.0	41.5	1,305,259	94.1	42.3
内 貿	計	トン	43,485,001	107.2	35.8	40,571,783	95.5	33.4
	移 出	トン	17,232,341	102.9	14.2	16,749,229	93.3	13.8
	移 入	トン	26,252,660	110.2	21.6	23,822,554	97.1	19.6
うち コンテナ貨物	計	トン	2,583,029	107.3	5.9	2,407,119	84.7	5.9
	移 出	トン	1,402,424	111.6	8.1	1,257,204	87.3	7.5
	移 入	トン	1,180,605	102.7	4.5	1,149,915	82.0	4.8
コンテナ個数	計	TEU	321,544	114.6	10.5	280,558	96.2	9.1
	移 出	TEU	112,620	110.5	3.7	101,964	88.7	3.3
	移 入	TEU	208,924	117.0	6.8	178,594	101.2	5.8

(注) コンテナ個数は、実入・空の合計。

「うちコンテナ貨物」の構成比は、外貿又は内貿の貨物量に占めるコンテナ貨物の割合。

貿易額

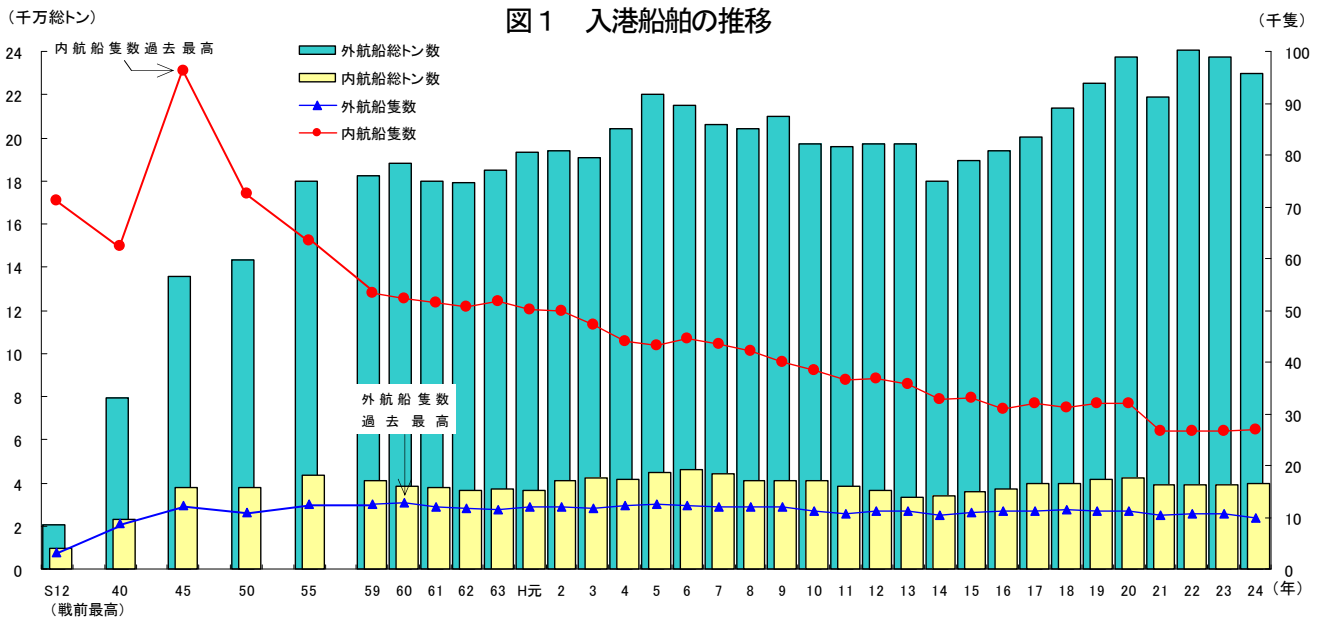
		単位	24 年	前年比	構成比	23 年	前年比	構成比
合 計		百万円	10,444,353	96.9	100.0	10,783,921	104.3	100.0
輸 出		百万円	6,778,447	96.7	64.9	7,006,623	98.6	65.0
輸 入		百万円	3,665,906	97.1	35.1	3,777,297	116.8	35.0

(注) 横浜税関資料による。(確定値)。

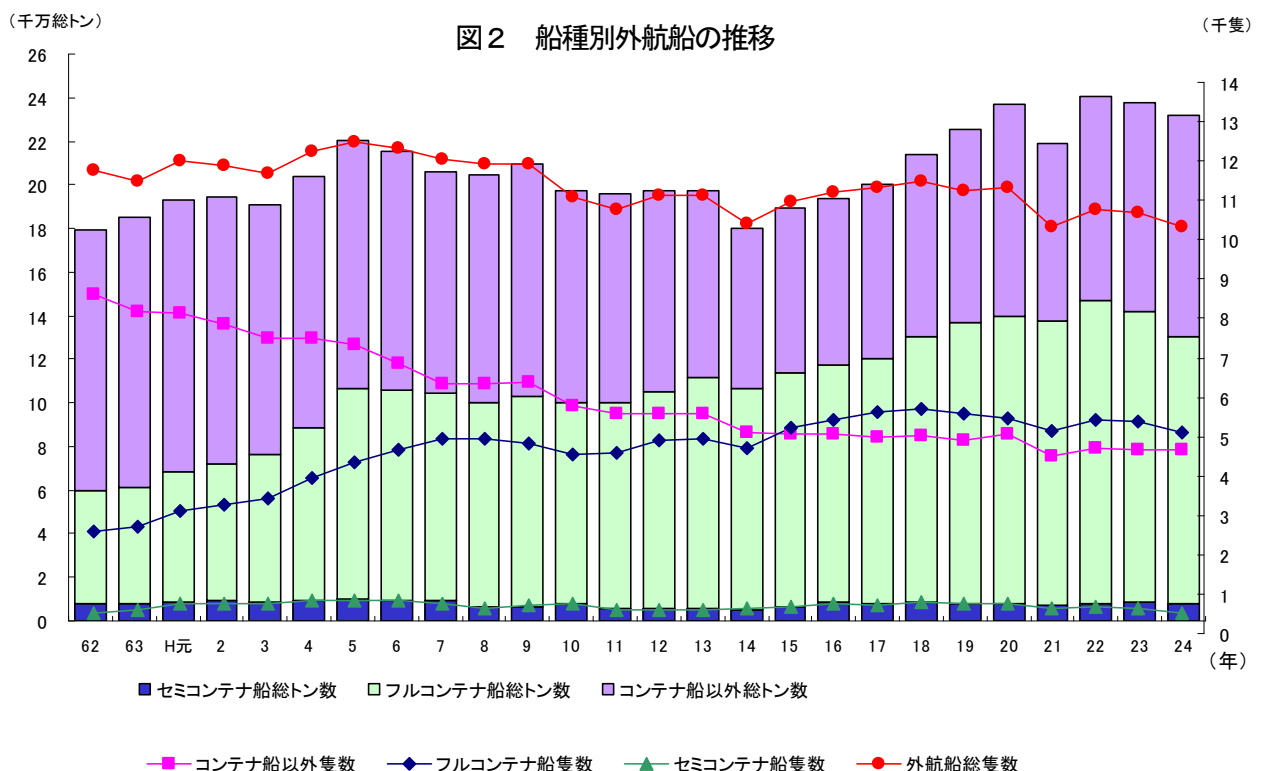
平成24年の横浜港の外貨貨物は、長引く円高、欧州債務危機による世界経済の低迷に加え、最大の貿易相手国である中国との関係悪化などの国際情勢により、取扱いが減少し、輸出の中核をなす完成自動車が、一時、前年比4割減まで落ち込むなどしました。一方、内貨貨物の取扱いは増加したこともあり、総貨物量は1億2,139万トン（前年比0.1%増）で前年並みとなりました。入港船舶の隻数、総トン数は、前年比で微減、コンテナ取扱個数は、305万TEU（1.0%減）となっています。

1 入港船舶 【P 9】

入港隻数は外航・内航合計で3万7,047隻（前年比0.5%減、以下増減%は前年比）となりました。総トン数は2億7,387万総トン（0.9%減）となり、いずれも2年連続で減少となりました。



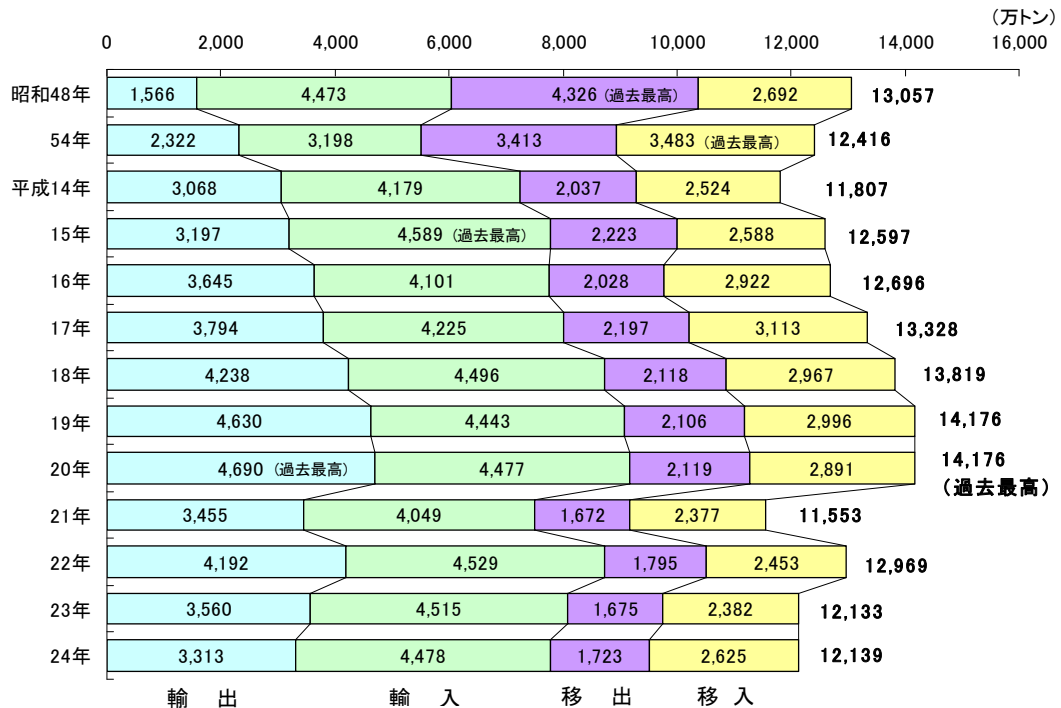
外航船の入港隻数は1万313隻（3.7%減）、総トン数は2億3,169万総トン（2.4%減）となりました。このうちフルコンテナ船は5,097隻（5.4%減）、総トン数は1億2,228万総トン（7.8%減）となっています。内航船の入港隻数は2万6,734隻（0.7%増）、総トン数で4,218万総トン（8.4%増）となりました。



2 海上出入貨物

- (1) 総貨物量 … 2年ぶりに増加、上半期は好調に推移するも、最終的に前年並みの数字に【P14、15】
 外貿貨物量は7,790万トン(3.5%減)、内貿貨物量は4,349万トン(7.2%増)、総貨物量は1億2,139万トン(0.1%増)となりました。上半期は、好調に推移していたものの、下半期以降、中国との取扱いが低下するなどして、最終的に、前年並みの数字となりました。

図3 海上出入貨物の推移



- (2) 輸出貨物 … 中国向け貨物の大幅な取扱い低下による影響が顕著に【P14~16】

輸出貨物量第2位の「自動車部品」(579万トン、3.5%増、構成比17.5%)は、前年を上回りましたが、第1位の「完成自動車」(1,085万トン、4.6%減、構成比32.8%)をはじめ、他の上位10品種は軒並み前年を下回っています。

国別にみると、第1位の中国が、完成自動車の取扱いが大きく落ち込んだことなどから、740万トン(17.4%減、構成比22.3%)と大幅な減となりました。

図4 主要品種別輸出貨物

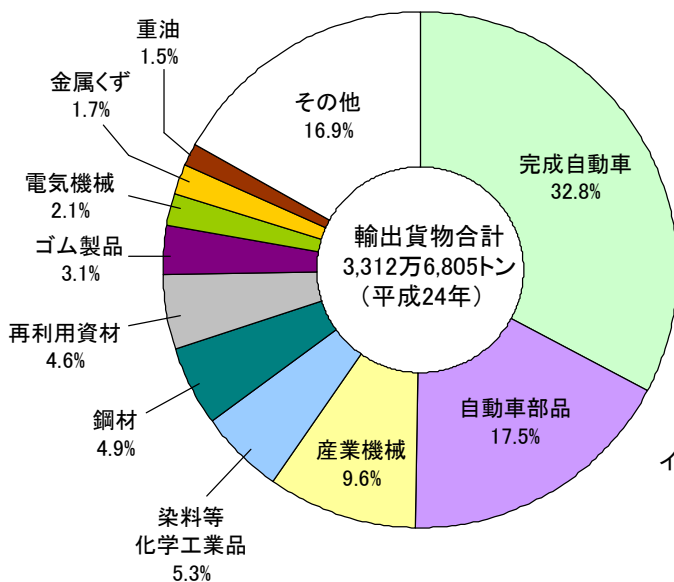
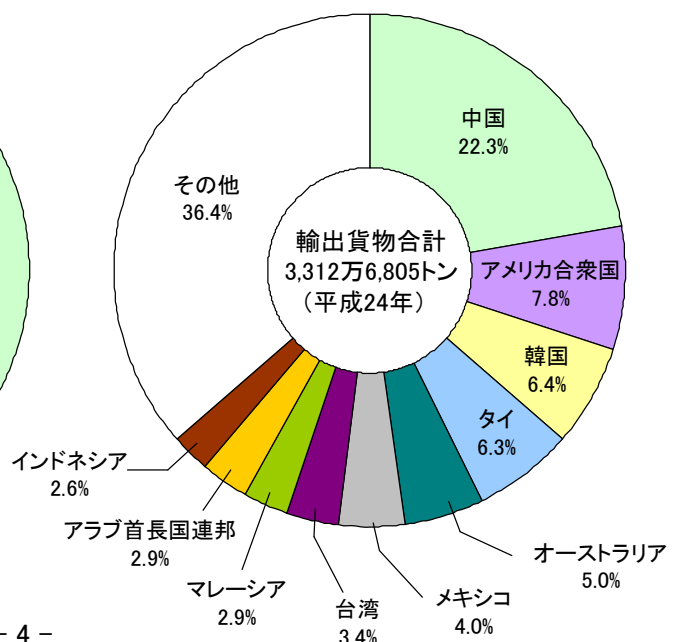


図5 主要国別輸出貨物



(3) 輸入貨物 … 前年比0.8%減で前年並み、LNGは3年連続増加 【P14～16】

輸入貨物量合計は4,478万トン(0.8%減)で、前年並みの取扱いとなりました。

品種別にみると、第1位の「LNG(液化天然ガス)」が824万トン(9.2%増、構成比18.4%)で、3年連続増加し、第2位は「原油」で536万トン(14.2%減、構成比12.0%)、第3位は「製造食品」で175万トン(3.1%増、構成比3.9%)となりました。

国別にみると、第1位は中国で833万トン(3.1%減、構成比18.6%)、第2位はオーストラリアで503万トン(4.5%増、構成比11.2%)、第3位はアメリカ合衆国で485万トン(4.5%減、構成比10.8%)となっています。

図6 主要品種別輸入貨物

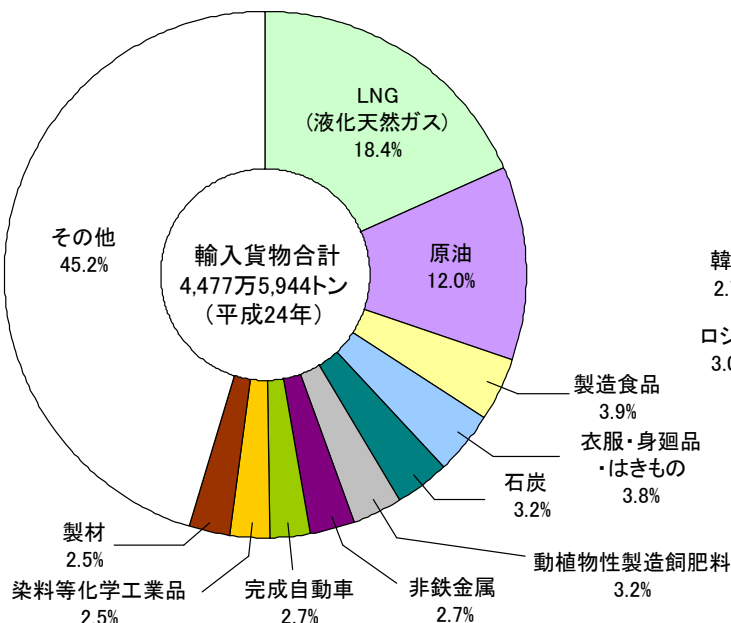
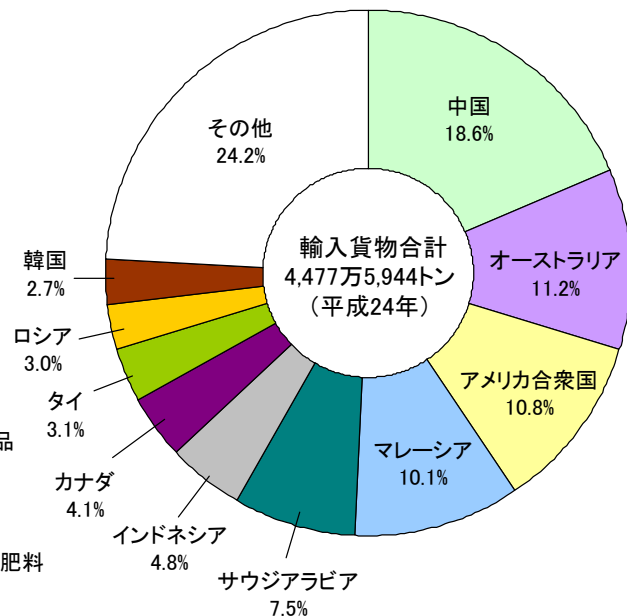


図7 主要国別輸入貨物



(4) 内貿貨物 【P14、15、18】

移出移入合計は4,349万トンで、前年比7.2%増となりました。

品種別にみると、移出の第1位は「完成自動車」で315万トン(47.9%増、構成比18.3%)、第2位は「重油」で295万トン(9.0%減、構成比17.1%)となりました。また、移入の第1位は「原油」で861万トン(12.5%増、構成比32.8%)、第2位は「完成自動車」で416万トン(55.6%増、構成比15.9%)となっています。

図8 主要品種別移出貨物

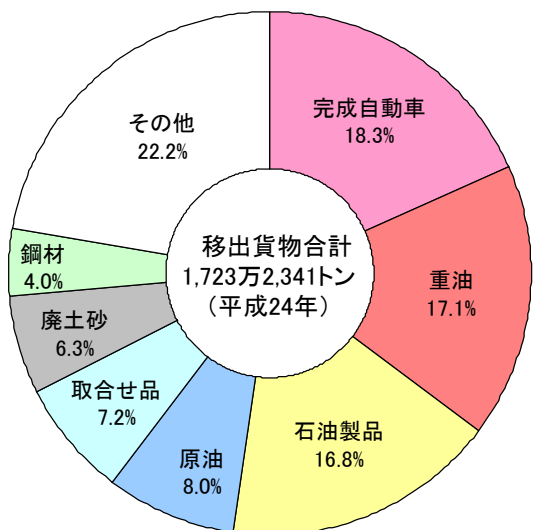


図9 主要港別移出貨物

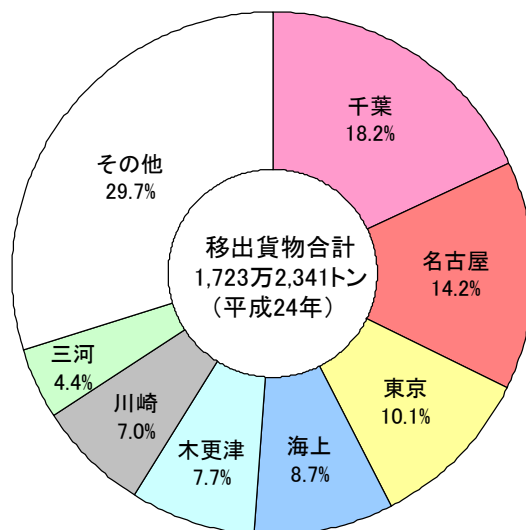


図10 主要品種別移入貨物

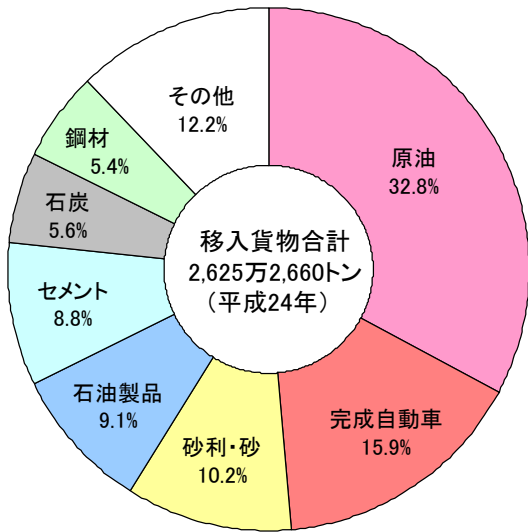
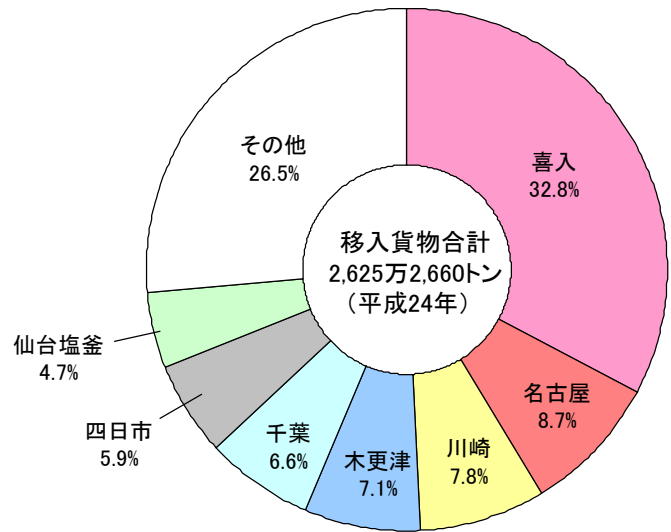


図11 主要港別移入貨物



(5) コンテナ貨物 … 内貿コンテナ貨物量 7.3%増、外貿コンテナは2年連続の減少【P14、15、25】

外貿コンテナ貨物量は、輸出が1,914万トン(9.4%減)、輸入が2,268万トン(1.9%減)、輸出入合計では4,182万トン(5.5%減)で、2年連続の減少となっています。

外貿貨物全体に占めるコンテナ貨物の割合は、53.7%となり、9年連続で5割を超えています。

図12 外貿貨物量の推移

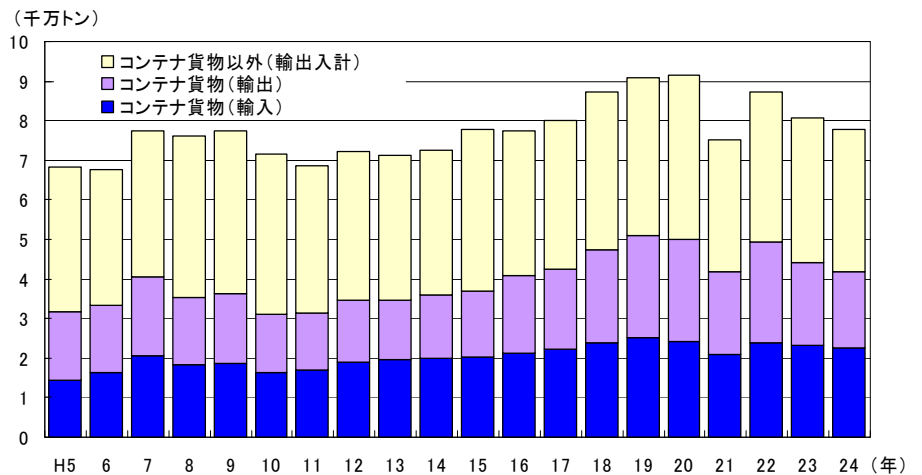
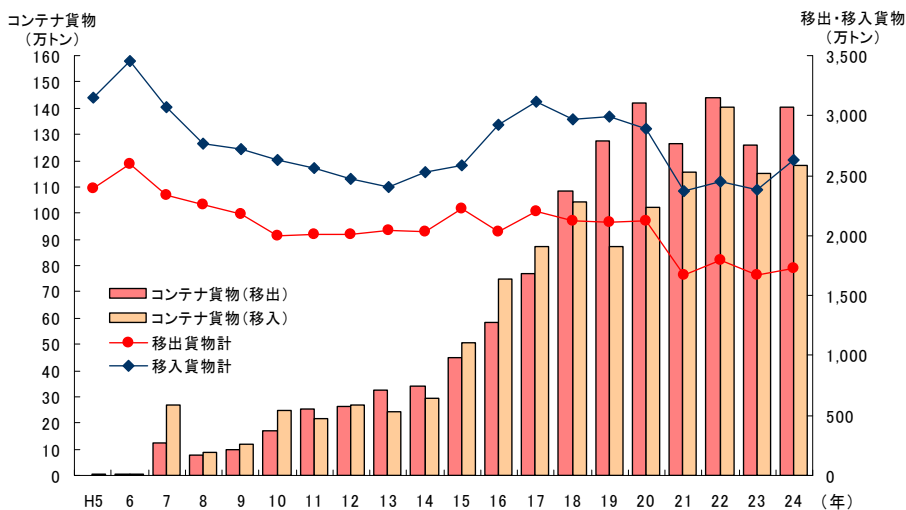


図13 内貿貨物量の推移

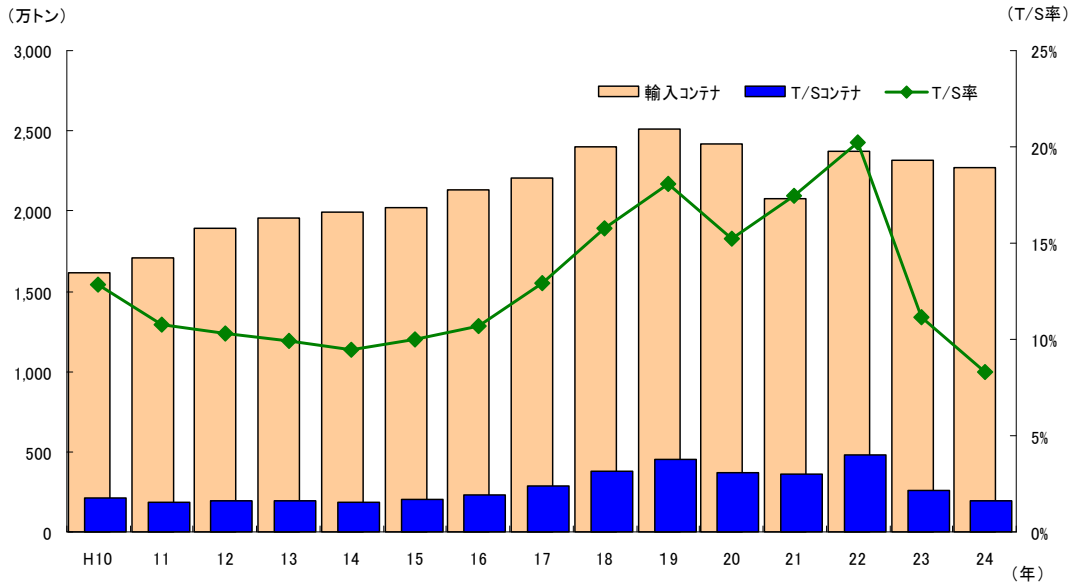


内貿コンテナ貨物量は、移出が140万トン(11.6%増)、移入が118万トン(2.7%増)、移出合計では258万トン(7.3%増)となっています。

(6) トランシップコンテナ貨物 【P26】

輸入コンテナ貨物のうち、横浜港で積み替えたトランシップコンテナ貨物量は189万トン、トランシップ率は8.3%となり、2年連続で減少しています。

図14 トランシップコンテナ貨物の推移



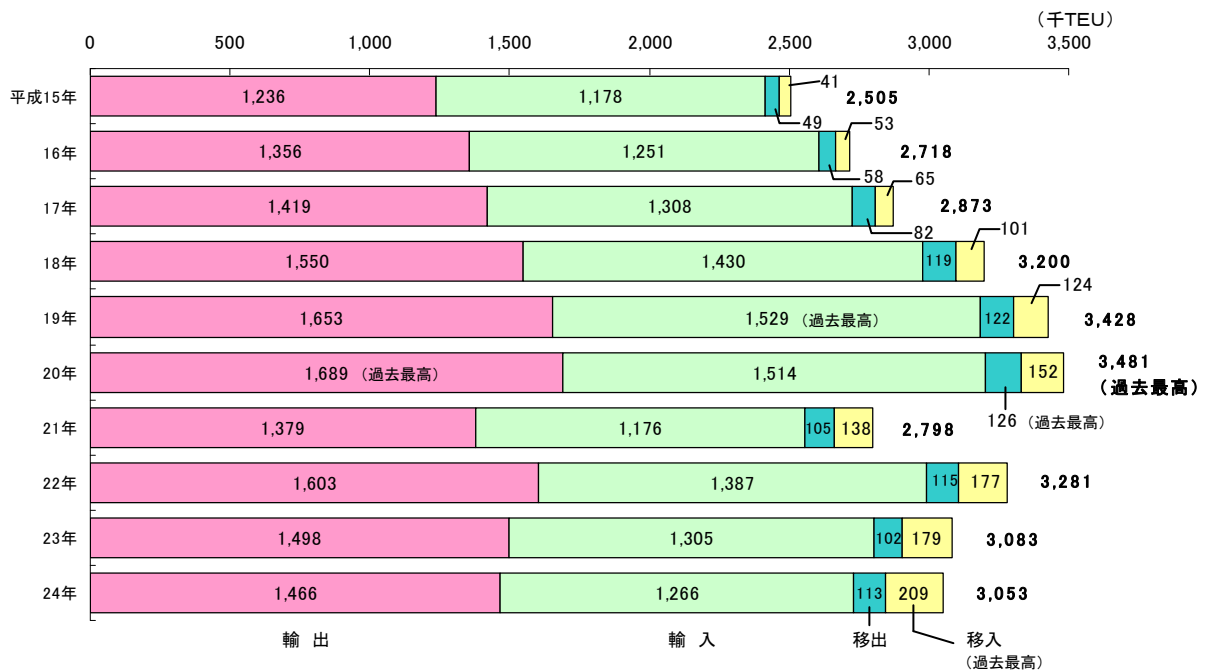
(7) コンテナ個数 … 外・内貿合計305万TEUで、前年比1.0%減【P20、21、48】

外貿コンテナ個数は、輸出が147万TEU(2.1%減)、輸入は127万TEU(3.0%減)、輸出入合計では273万TEU(2.6%減)となりました。

内貿コンテナ個数は、移出が11万TEU(10.5%増)、移入は21万TEU(17.0%増)、移出入合計では32万TEU(14.6%増)で、移出入ともに2桁増となっており、移入については、3年連続で過去最高を更新しています。

外内コンテナ個数は305万TEU(1.0%減)となり、2年連続で減少しています。

図15 コンテナ個数の推移



横浜港のコンテナ取扱個数（305万TEU）は、東京港（475万TEU）に次いで13年連続で第2位となっています。横浜港のコンテナ取扱個数を前年と比較すると1.0%減となっており、主要5港では、他に大阪港及び神戸港が前年の実績を下回っています。

図16 主要港別コンテナ個数

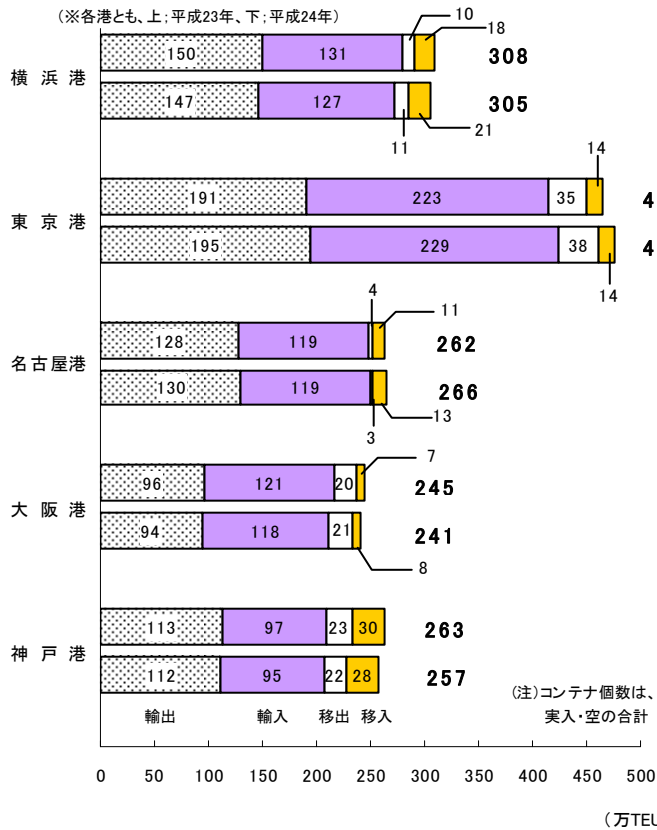
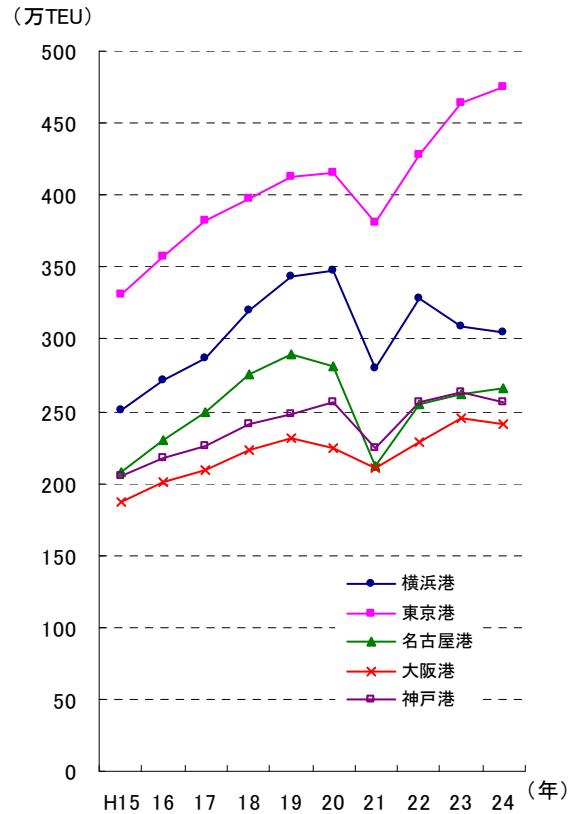


図17 主要港別コンテナ個数の推移



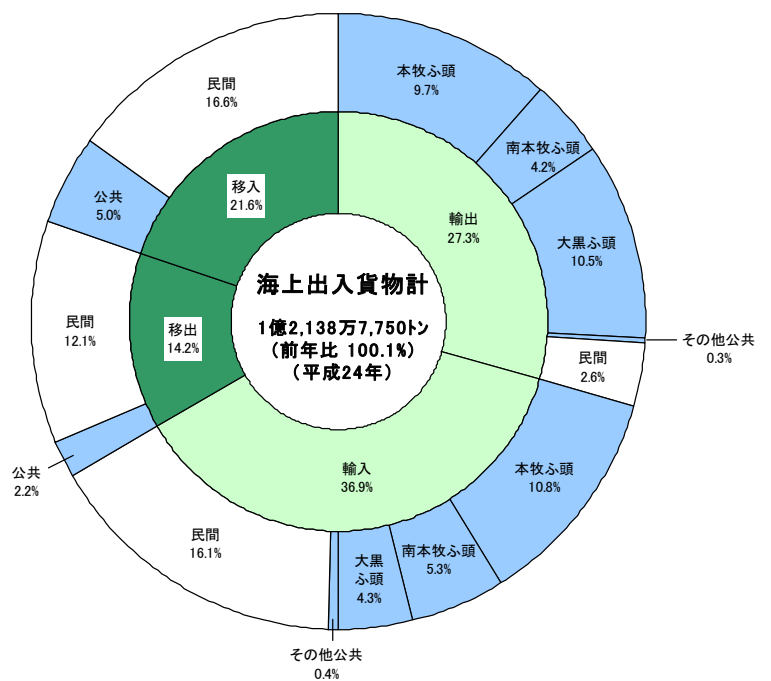
3 施設別取扱貨物量 【P28～30】

海上出入貨物量1億2,139万トンに占める公共施設の取扱貨物量は、6,398万トン（1.9%減、構成比52.7%）で、民間施設は5,741万トン（2.3%増、構成比47.3%）となっています。

これを、外貿・内貿別に比較すると、外貿貨物は公共施設での取扱量が、5,525万トン（構成比70.9%）で、全体の約7割を占めています。

一方、内貿貨物は民間施設での取扱量が、3,476万トン（構成比79.9%）で、全体の約8割を占めています。

図18 施設別取扱貨物



※ 公共（本牧、南本牧、大黒、その他公共）は、横浜市及び横浜港埠頭株式会社が所有する施設。